

「ムササビを飛ばそう(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

高尾山にはムササビがたくさん住んでいるらしいが、夜行性の彼らを、日中目にするのは難しい。しかし、確かにムササビが生活している・・・という証拠を観察することはできる。



これは“元”マツボックリである。ムササビ(またはリス)が食べた残りの“芯”の部分だという。確かに山道に、こういうマツボックリが落ちているのを見かけることがよくある。ただワイワイおしゃべりしながら歩くだけではなく、生物の営みを探しながら山



歩きをするのは、子どもたちにとっても、楽しいことだろう。

これは、ムササビの巣穴をさがしているところだ。ムササビはフクロウと同じように、樹木にあいた穴や、うろに巣を造る。これを「樹洞性営巣」という。

高尾山は、多くの区画が薬王院の山内(敷地)にあたり、大木が多い、スギが圧倒的に多いが、広葉樹にも樹齢の高い木が多い。こうした大木には、太い枝が折れたあとが「うろ」になることが多い。



薬王院の山門の近くのこの大木にも、いかにもムササビがいそうである。子どもたちと一緒に、穴やうろを探してみた。木のかなり高い場所に、いくつも穴が見つかった。実際にこの中でムササビが休んでいるという。子どもたちは「ムササビちゃん、顔出さないかな～」とずっと見つめていた。



「ムササビ探し」のあとは、薬王院の宿坊で、精進料理をいただいた。まずは、薬王院の高僧から、精進料理や「食事に感謝する」という意味を伺った。精進料理は、卵さえも使わない完全な植物食だったが、子ども用に非常に工夫されていて、おいしかった。一番右側の方は、薬王院事務主幹である。(つづく)